

2016年7月26日

札チャレラジオ通信 第29回

岡野：三角山放送局をお聞きの皆さんこんにちは。札チャレラジオ通信です。私は今日のパーソナリティーのNPO法人札幌チャレンジドの岡野です。宜しくお願いします。札チャレラジオ通信は自立を目指す障害のある人がITでマザル・ハタラク・拓き合う社会をつくりたいとの思いで活動しているNPO法人札幌チャレンジドが毎週月曜日のこの時間に札幌チャレンジドの活動内容をお伝える番組です。今年1年放送いたします。宜しくお願いします。今日は、私と飯村の冷え冷えコンビが担当いたします。飯村さん宜しくお願いします。

飯村：はい、宜しくお願いします。

岡野：今日はゲスト、札幌チャレンジドで長年ボランティアさんとしてご支援していただいています、千代孝光さんです。千代さんこんにちは。

千代：こんにちは。宜しくお願いします。

岡野：ではまず、千代さん、簡単に自己紹介をお願いします。

千代：87歳まで生きたものだから、自己紹介つっても長くなったら大変なんでかいつまんで短くしゃべらしていただきますね。私は生まれはね旭川なんです。生まれはね。生まれは旭川で旭川で20歳まで生活して青年時代になんかおれが家において百姓なもんだから、百姓すんのも土地は無いし、どっちみち外へ出る身だから何かないかなって探してたら丁度警察予備隊ってのがその当時ありまして。

飯村：ははあ、なるほどその名前の頃

千代：それに応募して入ったんですよ。それが始まりでそれから28年間自衛隊で生活して、終わってからは北海道土木協会に縁があって就職したんです。土木協会ってのは北海道の道庁の土木関係の人達で作った社団法人の協会だったんですよ。そこで、業務課長をやらせて頂いて、28年間おったんですよ。だから、定年が50で定年で、それから28年間だからね70何年間、そこにも27年間位そこにおった訳ですよ。で、それが終わってからそこでパソコンなんかを習った訳ですよ。で、それでパソコンを少し覚えてエクセルとワードを一通りやって、勤めた先にも殆ど各地方の建設業協会さんの方にいろんな情報を流すのは

全部うちの女性事務員を使うことなく、頼むことなく自分で全部やった。

?? : 自立。

千代 : それでもんだから、結構パソコンはですねえ70過ぎてから勉強してやれるようになったんですよ。

岡野 : すごいですね。

千代 : それで、あまり年取ってきたから千代さんそろそろゆっくりして頂戴ねって言われて、辞めて、それじゃなんも無くなったら大変だなあと思ってそれから今度は考えてたら丁度札幌の高校に障害者にパソコンを教える先生の養成講座があるよ。2日間無料でやるという…。あ、これはいいな。こいつ一つやって何か少し役に立つことがあるかなあと思って受けたのがそもその始まり。

岡野 : じゃあ、それから札チャレとの付き合いが始まり…。

千代 : それから札チャレとの付き合いが始まって既にもう11年目になってるから

岡野 : そうですね。はい。色々見ると平成17年から…。

千代 : 一番最初それ終わって帰ってきてから、札チャレで今度は講師の助手が必要だっていうふうな話があって、ったら、助手やらしてくれるかい？つったら、どうぞどうぞつうことで恐る恐るだ。実際何も教えたことないんだから。

飯村 : いや、恐る恐るには見えなかったけど

千代 : 自分でやったって教えたことないんだから、こりゃあ大丈夫かなと思って行って、ま、聞いたら何とかかんとかやれそうだなと思って、それから始めたのが高橋めぐみ先生の時の助手だったんですよ。一番最初が。それからがなんか始まりでずーと長い間のお付き合いが続いた訳でございます。楽しかったですね。それでもね。なんでもやっぱりボランティアっていうのはね人の為だと思うのは一般の風潮だと思うんです。しかし、私はボランティアやるのは自分の満足、喜び、完成度そういう風なものがねやっぱり自分に返ってきてるんですよ。だから、若さを保つ秘訣にもなったんじゃないかなあと思う訳です。ま、そんなようなことございまして、そもその始まりは、それからしばらく経ってからこの障害者の家へ行ってねパソコンを教える人がいないかっていう希望者を募ったものだから、それ

で手を挙げて5件位やりました。2年か2年半やったのかな。障害者の家のパソコンの教えを。

岡野：今あの札幌市のボランティアですね。

千代：うん。札幌市のボランティア。

岡野：そうですね。

千代：だから、あんときは向こう行ったら1時間千円になったかな？貰ったんですよ。

飯村：今もそうです。

千代：それで交通費は札幌市で出してくれたようですよ。そんなもんだから、そういうところで楽しく仕事をやらしていただきました。その後今度は札幌のチャレンジドでは、印刷をやったり、除雪をやったり、発送したり、ま、いろんな仕事をやらして頂きました。多いときは1600部位印刷したんだけど、あの印刷だけは死にも狂いだったですな。実際はね。

岡野：札幌チャレ通信ってやつですよ。

千代：そうです。それを札幌チャレ通信を印刷するには同上の別館のに印刷所があったものだから、そこに持ってって午前と午後と2時間ずつ割振りを戴いて時間で1600部印刷ってんでご飯食べる暇が無いの。食べながら仕事やってたの。

飯村：印刷物台車に乗ってね。

千代：うん。台車に乗って。冬ね台車に乗って行くのが大変だったのさ。あれが。

飯村：台車がもういい加減な台車。

千代：そう。ごとごと台車だったからさ。やっぱ、雪溶けるようになったらね、なかなか大変なもんで。ま、そんなことで、それから楽しく毎回やっておりました。

岡野：ありがとうございます。

千代：仲間が何人かおりますんで、楽しかったです。ま、大体そんなところで、少し余分なこ

とまでしゃべりましたけども、

岡野：いえいえ。

千代：そんなところです。

岡野：はい、ありがとうございます。自己紹介ってお願いしたんですけども、大分こちらが聞こうと思ったそういう内容まで結構色々、はい、お話頂いて。そうですね、ボランティアさんのその登録票ってちょっと見させていただくと、平成17年からもう…

千代：そうです。

岡野：10年、11年目から？でも、10年目っても、千代さんが70のまだ後半ですよ？

千代：そうです。

岡野：その70の後半からそのパソコンをやりたい、やってみたいというそのバイタリティーってのはどっから出てくるのかなぁと思って。

千代：なんていうか、やっぱり好奇心があるんだろうな私ね。

岡野：うーん。

千代：それが有るからだと思うんですよ。若い時でも好奇心が有ったんで、国家資格だって15ぐらい持ってんです。

岡野：そんなに持ってんですか？

千代：最後にとったのが、簿記2級。日商簿記の2級をとったのが最後だったかな。それも、辞めてからとったからね。

飯村：動機はもう全部好奇心からですか？

千代：うん。それがやっぱり、ま、好きというのと健康的にその頃まだね、元気だったものだから、満足感が有って、楽しくやれたから、続いてきたと思うんですよ。バイタリティーも。うん。

岡野：なるほどね。先ほども言ったんですが、例えば通信の印刷だとか、その通信の発送。ま、今でもやっていただいていますけどもね。そうやって、先ほど、今は札チャレの事務所内に色々な機械が有ったから良かったんでしょうけど、昔はそうやってわざわざ外に。

千代：そうなんです。

岡野：紙を持ってって、台車に積んで、雪道でなんか台車をはまったとかいう

千代：はまってさ、みんな、ひっくり返して大騒ぎしたこともあったしね。紙汚してもったいないこともしたことも何回もあるけど、

岡野：今は通信で大体6百ちょっとですね。

千代：あの頃1600位あったのかな。大変だったんですよ。やっぱりね。4時間びっちり印刷機使ったからね。二人で。

飯村：部数が多いんだね。とにかく持ってって、引き返してこれが大変ですよ。

千代：うん。

飯村：はんぱなくね。

千代：そうそうそう。それで、大判はやっぱりページ合わせしなきゃいけないしょ？

飯村：かぐだいばってやつね。

千代：かぐだいば。そのね機械あるんですよ。そこに。道庁の別館には。そこに10枚入れて、ちょちょちょよってやれば10ぱいっぺんに出来るから、それでやとったから楽だった。それは楽だったんですけどね。

岡野：それがページ合わせつつたら、つい最近までね千代さんがページ合わせって印刷する為の、ここには何ページと何ページを張り合わせとか

千代：そうなのさなの。

飯村：あれ間違っていると大変だから。

千代：あれ間違っってやって失敗したこともあるんだ実際やったら。

岡野：これはそうですよね。

千代：あれが早く来てやらんと間に合わんもんだからページ合わせやるの大変だったさね。

岡野：あとはパソコンの講師の方。ワードとかエクセルっていう講師をされてた？

千代：そうそうそう。ワードとエクセル。

岡野：あー、なるほど。さっきのその協会さんで勤めてた頃からやっぱりそういうパソコンをやっって、

千代：うん。ワードとエクセル。一番最初はね、パソコンを買って、千代さん使うか？ったから、使います。お願いします。って貰った訳です。しかし、先生いないんだから、一週間位来てちょこちょこっただけで終わりでしょ？それも、一時間か二時間、パソコン買ったってリースでね、会社が貸して教える位なもので、それから、テキストを見ながらやっただけで時間が掛かるの。

飯村：ほとんど独学？

千代：独学です。当時はね。だって、事務所に居たって、私と女性事務が一人と、パソコンやるの二人しか居なかったんだもん。

飯村：自分でやるしかない訳だ。

千代：新しい男の人たちは皆パソコンやりやしないから、よそ向いて、そんなもんおまえやれ一っちゅうなもので、買ってやっただけだからっていうことで。

飯村：やりたかったんでしょ？

千代：やりたかったんですよ。

それだから、買ってくれっただけですよ。あ、置いてくれって。それで、一生懸命やって各建設業協会さんの方に全部メールで送ってさ情報流してやって、そういうことやってたか

らね。楽しかったんだ。

岡野：色々お話聞いてるともう前半の時間が来ちゃいました。ここで、千代さんの今日のリクエスト曲ということで、五木ひろしの「夜明けのブルース」というのをリクエストいただきました。これもなんかお話があるということで。

千代：うん。この夜明けのブルースは歌好きだったんじゃないけど、五木ひろしはね好きなの。実際だったらね。なんで、好きなのったら五木先生おるでしょ？作家。

岡野：あー、はいはい。

千代：あの人がかんで書いてひろしでしょ？こっちはひらがなのひろしでしょ？その名前から大体好きになっちゃったんだよね。五木先生の話は聞いたことも有るし。私一回ね生で。そんな関係があって、ボランティアがら、あ、これは面白いなって事になった訳です。それで好きになってたまたま聞いたんです。

岡野：なるほど。

千代：じゃ、それが始まりです。

岡野：わかりました。じゃ、はい、千代さんのリクエスト曲、五木ひろしの「夜明けのブルース」どおぞお聞き下さい。

岡野：はい。札チャレラジオ通信後半です。前半は千代さんの札チャレの中での、ボランティア活動。

千代：はい。

岡野：パソコンの講習だとか通信の印刷・発送？

飯村：はい。

岡野：はい。で、氷割だとかのいろいろな話を伺ったんですけども、なんか、札チャレ以外にも数多くボランティアをされているという事なので。ちょっと、その辺をお聞きしようか

など。

千代：ええそうですね。まあ、一番最初ボランティアをやったのは、札チャレの前にもボランティアをやったのはね、札幌市の広報に載った小学校のね、子供の集まりがあってその時にボランティアを1回やってるんだ学校行って。

岡野：はあ、はいはい。

千代：2時間、いや3時間ぐらいやったのかなあの時ね、それが始まりだったの。

飯村：子供がいるときに。

千代：子供さんの。

岡野：子供相手にどういうボランティアをされたんですか。

千代：あの時はね、子供たちにいろんな意見を集約して、そして報告する役目だったの。

岡野：はあ

千代：そのボランティアを一番最初にやったのがそうだったのさ。これがまだ70代の初めくらいだね。そのあと子供ボランティアをそれから今もやってるけど、大志塾ってのを札幌市でやってるの、大志塾っての。

飯村：大志塾？

千代：さくらんどに子供に、2000円か3000円とってるんじゃないかな1人ね。

飯村：はあ。

千代：ひと夏。

岡野：さくらんど。はい。

千代：そこでボランティアをやって、トマトを植えたり、なすび植えたり、カボチャ植えたり、とうきび植えたりして、そのボランティアをやったんですね。

飯村：畑仕事を？

千代：うん。それからそのあとやってんのは、暇なら何かないかなと思ったらマラソンがあったんですよ。

飯村：そうだ。はい。

岡野：ああ。そうだ。聞いてます。

千代：北海道マラソンに、もう7年ぐらいやってかなあ。

岡野：うーん。

千代：そうすると合わせて、今度は札幌マラソンがあつて。

飯村：札幌マラソンはあれですか？走るほうじゃなくて？

千代：走るのはやめたけど、走れないんだよ70過ぎたらねえやれないもん。その前はスキーやったりなんなりして走っとたから。

岡野：ええ。

千代：それで、年2回でしょこれで。

岡野：はい。

千代：そのほか去年、一昨年からかな豊平川のマラソンと、作ACマラソンていうのがあつて。

飯村：一昨年？

岡野：へえー。

千代：うん。

岡野：結構いろいろあるんですねそういったやつ。

千代：あるの。それから、モエレ山のリレーマラソンっていうのがあって。だから、マラソン関係で5つやってんです。

岡野：ふーん。

千代：1日だからねそれはね。

岡野：うーん。

飯村：うーん。

千代：札幌マラソンだけ、北海道マラソンだけは受付と給水と2回やって。

飯村：はあ。

千代：2日間、3日間出とるけどあとは1日だから、退屈しすぎにはちょうどいいとこなんですよ。

岡野：ふーん。

飯村：それは年間の中でそれぞれボランティアとして加わると。

千代：うん。そうそう。ちょうど今日に、まあなんとかかんとか楽しめてるしいいなあと思ってるんですよ。そのほかにまあボランティアやってんのは、札幌ジャズフェスティバル。これが結構、これも7年ぐらいやってんです。

飯村：これも今ちょうど。

千代：今ちょうどやってる最中で。

岡野：そうですよね。

千代：今年もう3回行って。あと、最後の30日と31日両方行ってやれば、今年はこちらは終わりなんですけどね。

岡野：うーん。

飯村：はあ。

千代：これも楽しいの、昔の仲間が来て「やあやあ千代さん。どうだい元気」なんてやってくれるからさ声かけてくれるし。

飯村：結構、馴染みの方がいらっしゃるんですか？

千代：結構、馴染みの方がいるんですよ。そういう人たちがおるもんだから、楽しい。前ね、前は結局私も若くて元気だったから、いろいろリーダーになってむこう行ってもボランティアでもリーダーになって、いろいろ指示したり協力してもらったりしたけど。

岡野：ええ。

千代：もう2、3年前からは、「はいはいはい」って聞くだけで「老いては子に従え」で、そんな関係でやっています今。

飯村：なるほど。

岡野：なるほど。マラソンとかだったら、例えば給水のボランティアとか受付とあるんですけど。このジャズフェスティバルのボランティアって、どういった活動をなんですか？

千代：お客さんにパンフレットを渡すんですよ。

飯村：会場で？

千代：会場でね。

岡野：ええ。

千代：その、お客さんがパンフレットを作るのは大体、前は450だったんだけども1回公演が今600だから、600部を作って次々、多いときはそれが土曜日や日曜日に2夜交代でやるからその分の全部作らないといけない。それ作って溜めとかないとねその時に間に合わんから、それをやるのが週でそのあと夜始まったらね、私はあまりやらないでもう年寄

りだから先帰るようにしてんだ。夜は大体9時ころから7時半、8時ころから始まるのかな。

飯村：ほお。

千代：それには若い人たちが、一生懸命にやって会場でお客さんの案内をしたりなんなりしておるんですけどね。それが、ジャズのボランティアですよ。

岡野：うん。

千代：うん。だから、ジャズの好きな人は中に入ってゆっくり。

岡野：うーん。

千代：ゆっくりって言うのはダメだけど、お客さんの顔を見ながら聞くことができます。

岡野：ボランティアをやりながら実際に聞くことができる。

千代：うん。ほんとそういうことですね。あれね。でも結構楽しいよ。

岡野：やっぱりジャズってのは、千代さん好きだったんですか？

千代：好きだよ。音楽の音、節のついたやつ大体好きなんだ元々。節のついたやつ

岡野：節のついたやつ

千代：民謡も好きだったしね。民謡、節もついてるし、あんなのも好きだったんですよ。若いときは結構、民謡もやったし詩吟もやったし

岡野：詩吟。はい

千代：なんでもやってたんだ。

岡野：ふーん。

千代：そういう風な好奇心がありすぎるのかなあ。

岡野：へえ。

飯村：あれですよ。それだけボランティアやってらっしゃると、もうあっという間に明日は何だとか。

千代：そうそうそう

飯村：来週はなんだとかなっちゃいますよね。

千代：で、若いときにいろんな国家資格を取ったってさっき言ったけど、大体28からですからね出したの。15も

飯村：28？

千代：うん。

飯村：60年くらい前ですね。

千代：衛生管理士だとかね。

岡野：ええ。

千代：そんなものを取っても、なんでこんなもの必要なのかなというものもとってるんだよ。うん。こんなとこですね。

飯村：はい。なるほど。

岡野：今その資格を取られて、なんか使っているとか

千代：使おうと思って取ったわけ。

岡野：ええ。

千代：そして、使わぬうちに歳を取っちゃった。おかげさまで。使うようになればまだ、いい就職口あったのかなと思ったりするけど。

飯村：うん

岡野：うん

千代：それがないうちに歳取ってきちゃったからさ

岡野：ええ

千代：北海道ロボ協会に勤めたのが、28年間勤めたんだからやめて第2の人生をね。そしてたら歳来ちゃったよ、作業をどっかお願いしますちゅうわけにもいかんようになっちゃって。

飯村：でも、あれですよ。使いそうもない資格だけども、実際勉強してみると。

千代：僕もね、資格とつとるとね何かの時に使えるなっていう気はあったんですよ。

飯村：はいはい。

岡野：はい

千代：困ったときには。

岡野：うーん。

千代：余所行って話するときは結構、車両の2級整備士だってディーゼルとガソリン持つてるし。

飯村：うーん。

千代：それから整備工の指導員の免許も持つてるし、取ったしね。

岡野：うん

千代：結構なもの取ってんだ。

飯村：資格でも取らないとわかんないことってやっぱりありますよね。

千代：あるある。

飯村：そこが面白いのかな。

千代：うん。まあ、そんなもの取って楽しみながら、やっとするわけさ。これだから元気に現在までやれたのかなあ。

飯村：いや、きっとそうですよ。

千代：うん。

飯村：うん。好奇心何よりです。

千代：やっぱり好奇心持たないとね、歳取っちゃうんですよね。

飯村：うん。

岡野：まあ、資格もありますし、まあ今パソコン？やっぱり、失礼ですけど88の年代でパソコンをこれだけ使うっていう。これ自体がやっぱり、ねえ千代さん

飯村：そうですね。

千代：そうですね。

岡野：ね。

千代：パソコンやったのが、そもそもやっぱり幅広くあるいろんなものにお付き合いできるようになったなど。

飯村：ちょっと、やってみましたじゃなくね。それで人と接してるわけですからね。

岡野：そうですね。

千代：だから、札チャレにほんと頭が上がらないんだよ。

岡野：こちらこそ。

飯村：こちらのほうが。

千代：ほんと。今度応援に札チャレにみんな興味持ってね、来てほしいなと思ってんですけど。だからいろいろ今もう発送だとかなんとかだけではなくて、元町のイオンだとかパンフレットねえ。置いてありますから。

岡野：そうですね。お願いしております。

飯村：はい。

千代：なくなったら見てるから、無くなったよって言ってほしい。そんなことですね。

飯村：はい。

岡野：はい。ありがとうございます。

千代：はい。

岡野：いろいろお話聞いているうちに、もうこうやって閉めの BGM が流れてきました。

千代：おお。よかった。

飯村：まだありそうですけどね、話は。

岡野：いろいろ、話を聞いているときりが無いと思いますので。今日はこの札チャレボランティアさんの千代孝光さんにお越しいただきました。本当ありがとうございました。

飯村：ありがとうございました。どうも。

千代：ありがとうございました。どうも。

岡野：このように札幌チャレンジドは、もう 2000 年に設立当時から数多くのボランティアさんに支えられて、ここまで来ることができました。これからもボランティアさんのお力をお借りしながら、活動を進めていきたいと思っております。ラジオをお聞きの方でボランティア

に興味がある方は是非ご連絡ください。札幌チャレンジド電話番号は769-0843、769-0843となっております。よろしく申し上げます。来週は就労移行グループの、栄田・赤坂が担当いたします。また来週お会いいたしましょう。では、さようなら。

飯村：さようなら。

千代：さようなら。